南日本新聞　2019 年（令和元年）11 月 7 日（木曜日）

広がる「小高連携」

体育、そろばん、ミシン指導…

小学生　身近な〝先生〟に意欲

高校生　専門的な技能生かす

都市圏ウエーブ

高校生が学校で身に付けた専門的な技能を生かし、近隣の小学校で授業や指導をする「小高連携」の取り組みが鹿児島市内で増えている。小学生は年齢が近く親しみやすい〝先生〟に学習意欲が高まり、高校生は指導によって自分自身の理解が深まるなど双方にメリットがあるようだ。年長者が年下を指導する〝郷中教育〟現代版ともいえる取り組みは、市内だけでなく、県全体でも広がりを見せている。（角倉貴之）

「腕を伸ばしたまま立ち上がってみよう」。10月21日、郡山小体育館。明桜館高生が、手をつないで体育座りをしている4人の児童にアドバイスした。「できたー」。それまで腕を曲げたまま取り組んで力が入らなかった児童が、そろって立ち上がることに成功し、笑顔が広がった。

明桜館高スポーツ健康科学コースの生徒による、小学生への運動指導。児童の気持ちを理解し、まとめるリーダーシップを養成しようと高校側から提案し、2011年から続いている。同コース2年の阿部沙優香さんは「身ぶり手ぶりを交えてわかりやすく伝えるよう工夫した」と振り返った。

10月17日にあった鹿児島市小学校陸上記録会に向けて、高校の陸上部員に指導を依頼するケースも相次いだ。鹿児島玉龍高は8日、甲南高は15日にそれぞれ、陸上部員が近くの大龍小、中洲小を訪れ、効果的な走り方や跳び方を、自ら手本を示しながら教えた。

■□■

連携はスポーツ分野にとどまらない。鹿児島南高校商業科3年生は10月15日に清和小、18日に中山小を訪れ、児童にそろばんの授業をした。基本の玉の動かし方から付きっきりで指南。中山小4年の田畑陽菜さんは「引き算が苦手だったけど、高校生のお姉さんが丁寧に教えてくれてわかった。いつもと違って面白かった」と喜んだ。鹿児島女子高生活科学科被服類型の3年生は30日に玉江小で、ミシンの基本的な使い方を5年生に教えた。

鹿児島市以外でもさまざまな交流がある。「歯・口の健康づくり推進指定校」の曽於高（曽於市）は保健委員が6月に末吉小を訪れ、歯科指導をした。9月には加治木高（姶良市）の応援団が、運動会を控える柁城小で演舞を披露した。

■□■

鹿児島県教育委員会高校教育課によると、「小高連携」に取り組んだ県内の高校は、教員同士の研修を含め、11年度の9校から18年度は17校に増えた。同課の福留和宏課長は「小中や中高の連携はこれまでもあったが、小高はこの数年で増えてきた」と語る。

連携は学校同士で話し合い、実施するケースがほとんど。鹿児島市教委の下江嘉誉学校教育課長は増加の理由を「双方にメリットがある取り組みだからではないか」とみる。

鹿児島玉龍高に陸上指導を依頼した大龍小の福田裕生校長(59)は「年長者が年下に教える郷中教育の良さを取り入れようと考えた」。本年度はほかにも、冬休みに同高生から勉強を教えてもらう会など、年間通しての交流を計画している。「高校生の姿にあこがれ、自分も頑張ろうという意欲につながるのでは」と話す。

高校側にとっても利点は少なくない。小学生にそろばんを教えた鹿南高3年の甲斐珠李亜さんが「小学生にわかりやすく説明するには、自分自身がしっかり理解することが必要」と話すように、教える側も学びを深めるきっかけになる。小学生にとって身近な存在になることで、進路先としての存在感が増す効果も期待できそうだ。

明桜館高校生の指導を受け、座った状態から手をつないで立ち上がる児童　＝鹿児島市の郡山小学校

そろばんを児童に指導する鹿児島南高校商業科の生徒　＝鹿児島市の中山小学校